

看護部の取り組み

宿泊療養施設支援の取り組み

看護部 副看護部長 蛸原大作, 師長 園田都美子, 師長 荒木健太郎

新型コロナウイルスによる感染者拡大に伴い、2020年4月に厚生労働省より「新型コロナウイルス感染症の軽症者等に係る宿泊療養及び自宅療養の対象並びに自治体における対応に向けた準備について」が発出された。これを受

けて東京都では2020年4月7日に民間の宿泊施設を使用した療養が開始された。その後の宿泊療養施設の開設及び運営について、東京都福祉保健局からセンターに依頼があり、4月16日に東京虎ノ門 東急REIホテル、翌日17日に

はイーストタワー(品川プリンスホテル)に、センター看護師を派遣し24時間体制で療養者に対する検査介助や毎日の健康観察業務に従事した。

報道発表資料 2020年04月06日 東京都新型コロナウイルス感染症対策本部

新型コロナウイルス感染症の入院患者の宿泊施設での療養を開始します(第155報)

都内における患者数の増加を踏まえ、都は、入院患者のうち、ウイルス消失が確認されていないが、無症状又は比較的軽症の患者について、宿泊施設での療養及び健康観察に移行いただくことにより、症状の重い患者の受入病床の確保を図る取組を試行的に実施することとしました。

1 宿泊療養施設

東横INN東京駅新大橋前(中央区日本橋浜町2-58-2)

2 受入規模

現在入院中の医療機関等と調整しながら、順次、宿泊施設への移行を進め、100名程度の受け入れを予定

3 受入開始

令和2年4月7日(火曜日)

関連情報

東京都防災ホームページ [新型コロナウイルス感染症の入院患者の宿泊施設での療養を開始します\(第155報\)](https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/ho-dohappyo/press/2020/04/06/21.html)

新型コロナウイルス感染症の入院患者の宿泊施設での療養を開始します(第155報)
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/ho-dohappyo/press/2020/04/06/21.html>

当初の宿泊療養施設の目的は、新型コロナウイルス感染症に罹患した入院中の患者を医療機関から宿泊療養に移行することで、医療機関の負担を軽減するものであった。この形態の療養施設方式では、宿泊療養施設に入所中

の患者が退所できるのは、新型コロナウイルスのPCR検査が2回連続陰性になることが条件であった。そのため医師・看護師の役割は健康観察よりもFull PPEで毎日行う全ての入所者のPCR検査が主な業務となっていた。

宿泊療養施設について

宿泊療養には、A、Bの2つの場合があります。

- A 入院中の方が当該医療機関から宿泊療養に移行する場合(医療機関 → 宿泊施設)
B 外来で診断を受けた方が自宅から宿泊療養に移行する場合(自宅 → 宿泊施設)



東京都が受け入れを行っている宿泊療養の施設		
形態	名称	所在地
A 医療機関 → 宿泊施設	東横INN東京駅新大橋前	中央区日本橋浜町2-58-2
A 医療機関 → 宿泊施設	東京虎ノ門 東急REIホテル	港区愛宕1-6-6
B 自宅 → 宿泊施設	イーストタワー(品川プリンスホテル)	港区高輪4-10-30
B 自宅 → 宿泊施設	the b 八王子	八王子市明神町4-6-12
B 自宅 → 宿泊施設	アパホテル&リゾート<両国駅タワー>	墨田区横網1-11-10

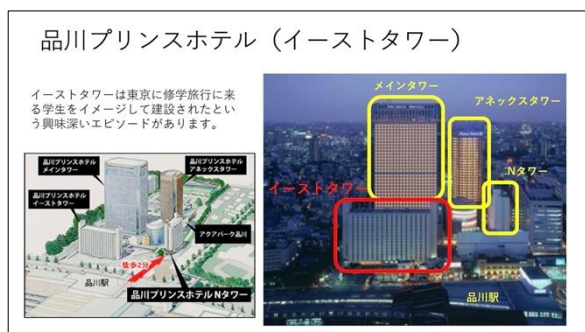
東京都福祉保健局HP <https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/syukuhaku.html>



宿泊療養施設3施設目のイーストタワー(品川プリンスホテル)は、2020年4月17日に開設し、2023年3月の閉鎖に至るまでの約3年間、東京都の宿泊療養施設の基幹施設として機能した。この施設以降に開設される施設は、自宅からの宿泊療養者を受け入れ、病院の

入院病床を軽症者で逼迫しないようにするトライアージ的な目的として運用が開始された。発症後、軽微な症状の方が多い中、症状の悪化が懸念される入所者や、入院が必要な中等症以上の状態の見極めが重要視される施設となった。宿泊療養施設全体の運営方針やマニユ

アル整備、医師会や連携病院との医療協力体制の強化、企業の健康観察アプリの導入および調整、人材派遣や会計年度採用の看護師の人材育成に至るまで、センター看護師が中心となりそれらの役割を遂行した。



2020年7月中旬頃(後の第2波)から再びセンター看護師による宿泊療養施設派遣が始まった。2施設の健康管理業務を担いながら、都内に新規開設される施設や、ペットと一緒に宿泊療養

を希望される方を対象とした、ペット同伴者用の施設においてもセンター看護師により開設支援を行った。第1波、第2波ともに1施設の入所者数は基本的には100名以下で推移していた。

東京都 TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

トップページ > 都政情報 > 報道発表 > これまでの報道発表 > 報道発表/令和2年(2020年) > 10月 > ペット同伴者用の療養施設を開設 (第880報)

報道発表資料 2020年10月08日 東京都新型コロナウイルス感染症対策本部

ペット同伴者用の療養施設を開設します (第880報)

(公財)日本財団が整備した施設を「臨時の医療施設」として位置づけ、東京都が、当面の間、新型コロナウイルス感染症の陽性患者のうち、入院治療の必要がない軽症や無症状の方々を受け入れるペット同伴者用の療養施設として運営します。

1 所在地及び主な施設

1. 所在地
東京都品川区東八潮3番1号(日本財団災害危機サポートセンター)
2. 主な施設
仮設住宅 140室(10室×14棟、約20平方メートル/室)
大型テント 1張(約600平方メートル)

2 施設概要

1. 入所者はペットとともに、仮設住宅内で生活
2. 対象のペットは、室内飼育が可能な犬、猫、うさぎ、ハムスターの4種

3 開設日

令和2年10月9日(金曜日)
※運営開始は、台風14号の影響により10月12日(月曜日)以降の予定

関連情報

東京都防災ホームページ 東京都新型コロナウイルス感染症対策本部報

問い合わせ先
福祉保健局感染症対策部事業推進課
電話 03-5320-4495



ペット同伴者用の療養施設を開設します(第880報)
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/10/08/22.html>

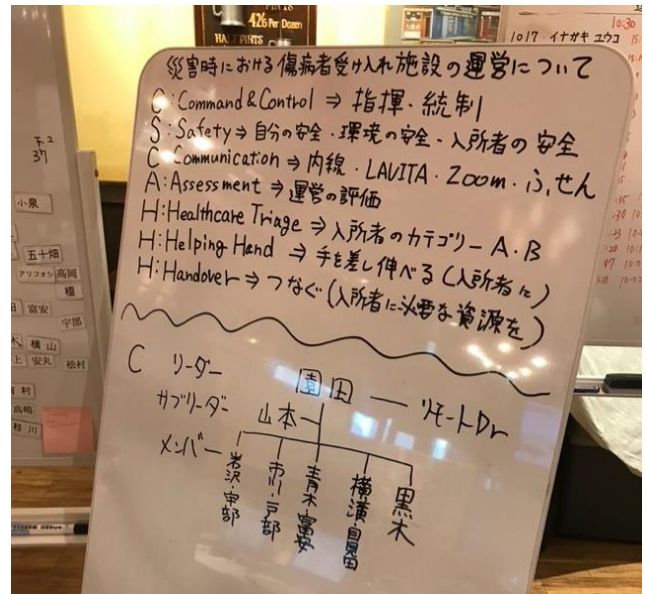
2020年11月以降の第3波では、1施設200名を記録するなど、新規感染者数が急増し、それまでの看護師体制では対応しきれなくなっていた。そのため、人材派遣の看護師が増員されたが、宿

泊療養施設の退所基準や医学的な必要者のカテゴリー分類の理解や、健康観察アプリの使用方法など、すぐに1人で業務遂行するには難しく、安全に健康管理業務が遂行できる早急な体制

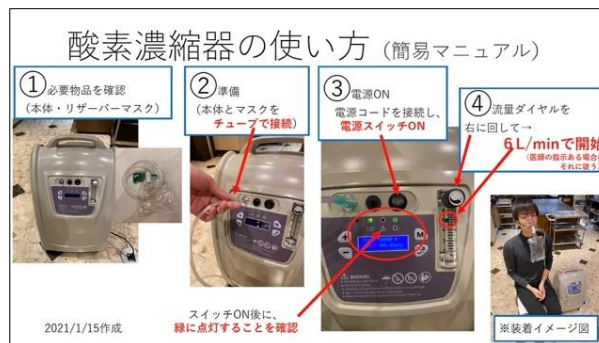
作りが求められた。そこで、看護師の経験を踏まえてペア制や2チーム制の導入とカンファレンスの充実を図ることで看護師同士のコミュニケーションを増やしてフォロー体制を構築した。

12月31日 (木) 分担表

退所予定日	退所人数	午前担当	午後担当	ダブルチェック
1/1	28	市川/前田	市川/前田	市川/前田
2	25	市川/前田	市川/前田	市川/前田
3	22	市川/前田	市川/前田	市川/前田
4	18	市川/前田	市川/前田	市川/前田
5	9	市川/前田	市川/前田	市川/前田
6	4	市川/前田	市川/前田	市川/前田
7	1	市川/前田	市川/前田	市川/前田
来	14	市川/前田	市川/前田	市川/前田
A	13	市川/前田	市川/前田	市川/前田



また、都内の救急医療が逼迫し、酸素飽和度が急激に低下している入所者を救急搬送できない状況も発生した。そのため、東京都に酸素吸入機器の導入の検討を依頼し、1月に家庭用酸素濃縮器が各施設に1～3台ずつ導入された。



2020年11月から、センター看護師の派遣施設は5施設となり、月30名が派遣された。また、東京都からの要請により、センター看護師が派遣されていない

宿泊療養施設の開設の支援も引き続き行い、2021年2月までに22施設の開設支援を実施した。センター看護師が派遣されていない施設でも、安全に健

康管理業務が遂行できるよう東京都と連携しながら健康管理業務マニュアルを作成し全宿泊療養施設で運用された。

2021年8月13日から、品川プリンスホテルイーストタワーの15階で抗体カクテル療法(ロナプリーブ®)を開始することになり、薬品冷蔵庫や救急カート、

ベッドサイドモニターや点滴架台、ナースコールなどの医療機器の設置、必要な医療材料をピックアップし、入所者が安全に治療を受けられるよう尽力した。



2022年2月 妊婦受け入れが開始となる。妊婦受け入れにあたり、前日事前問診の実施、部屋階数の調整、緊急時の受け入れ病院の調整、産科医とのリモートカンファレンスの調整を行った。多いときには1日2～3名の受け入れを行った。特に大きなトラブルなく経過した。

報道発表資料
2022年02月18日
東京都新型コロナウイルス感染症対策本部

オミクロン株の特性に対応した臨時の医療施設での受け入れを開始します（第2929報）

このたび、東京都では、オミクロン株による感染拡大に伴い、重症化リスクが高いといわれる高齢者や不安を抱える妊婦の受け入れを拡大するため、臨時の医療施設での受け入れを開始します。
なお、今回受け入れを行う施設の運営に当たっては、国と連携し、国が所管する公的病院の医師・看護師等の医療人材が派遣されることとなっています。

1 医療機能強化型

宿泊療養施設に医療機能を付加し、軽症から中等症1の方を受け入れ、酸素投与、中和抗体薬治療、経口薬投与に対応する施設です。
受け入れの調整は、都の宿泊療養調整本部・入院調整本部が行います。
※「中等症1」の数字の正しい表記はローマ数字です。

(1) 医療機能強化型宿泊療養施設（イーストタワー（品川プリンスホテル））

- 住所
港区高輪4-10-30
- 床数
60床（うち妊婦支援型 20床）
- 受入開始
令和4年2月19日（土曜日）

オミクロン株の特性に対応した臨時の医療施設での受け入れを開始します(第2929報)
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/02/18/37.html>

2022年3月(後の第6波)のオミクロン株の急速感染拡大した際に、電話問診による健康観察に時間を要し、看護師不足もあり、多くの入所者を受け入れることが困難であった。そのため企業と協働しAI問診が導入されることとなった。導入するにあたり、企業と綿密な打ち合わせを行い、問診内容や問診方法、動作方法を修正し、入所者が使いやすく、緊急度が分かりやすいように変更した。AI問診の導入開始時は、問診内容入力トラブルや通信環境による問題な

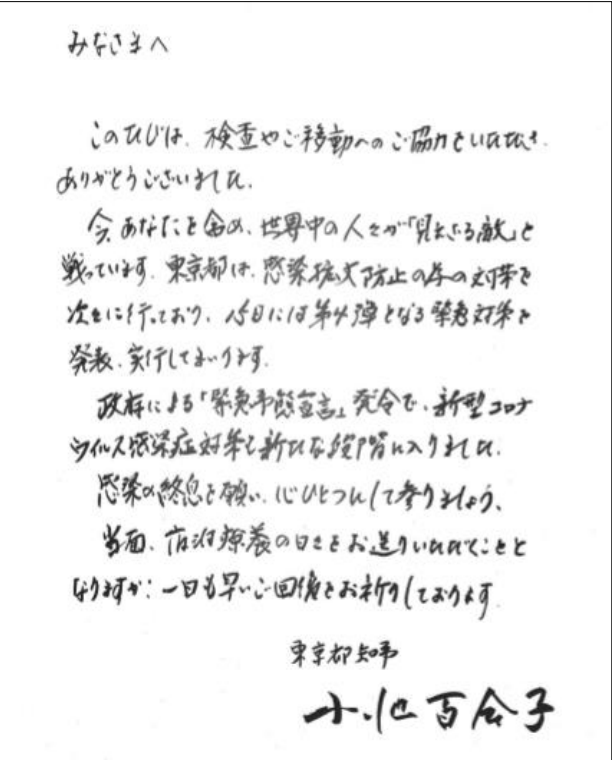
どが生じ、十分な活用とまではいかなかったが、その都度企業と打ち合わせを行い、スムーズにAI問診が活用できるようになった。

2022年7月(後の第7波)の感染拡大時には、1日90名程度の新規受け入れを行い、入所者約500名の健康管理業務を行った。その後、12月に再び感染拡大があり、常時400～500名の入所者の健康管理業務を行なったが、AI問診や弾力的運用を用いながら、入所者の安全を確保しながら健康管理を実

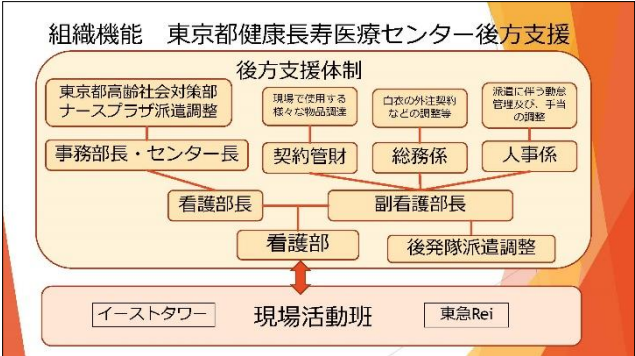
践することができた。徐々に、新規感染者が減少し、東京都でも自宅療養サポートセンターの制度も活用し、宿泊療養施設の利用者も減少していった。センター看護師の撤退を視野に、会計年度看護師、看護協会看護師、派遣看護師ヘリダー業務を移行していくため、リーダー育成を行った。

2023年3月、品川プリンスホテルの閉鎖が決定し、約3年に及ぶセンター看護師の宿泊療養施設派遣が終了した。

東京都知事から宿泊療養者へのメッセージ



宿泊療養施設派遣支援体制



宿泊療養施設活動本部(品川プリンスホテル)



宿泊療養他施設とのオンライン相談

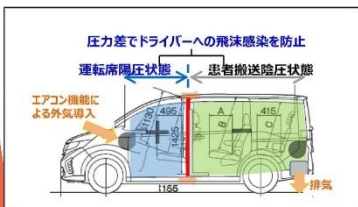


感染者搬送用の陰圧車

陰圧車について（本田技研工業株式会社）

「感染者を搬送するための車両（仕立て車）」を提供

- 自治体への軽症者の移動を支援するための車両を提供
- ODYSSEY(オデッセイ)/STEP WGN(ステップワゴン)等に、搬送時の感染リスクを削減するため、運転席と後部座席の間に仕切りを設置。さらに前後席間の圧力差を利用して、飛沫感染を抑制する構造に仕立てています
- 埼玉製作所(狭山工場)を皮切りに、国内事業所で生産
- 各地の販売会社でも車両の仕立てを行い、地元の自治体に車両を提供



本田技研工業株式会社: <https://www.honda.co.jp/philanthropy/saigai/covid-19-support/>

医療従事者等に対する感謝のブルーインパルス飛行

JASDF 航空自衛隊

報道発表資料

(お知らせ)

令和2年5月29日
航空幕僚監部広報室

新型コロナウイルス感染症へ対応中の医療従事者等に対する敬意、感謝を示すためのブルーインパルスによる飛行の実施について

標記について、下記のとおり実施しますので、お知らせします。

記

- 1 日時
令和2年5月29日（金）12:40頃～13:00頃
- 2 場所
東京都港区（基準）上空
- 3 予定飛行経路（基準）



※赤線で示す飛行経路（基準）を2回周回予定です。

【お問い合わせ先】
航空幕僚監部広報室 安土、久米田
TEL: 03-3268-3111（内線: 60097）
FAX: 03-5362-4816（直通）
メール: asga3204@aso.mod.go.jp

宿泊療養施設上空を飛行するブルーインパルス



新型コロナウイルス感染症へ対応中の医療従事者等に対する敬意、感謝を示すためのブルーインパルスによる飛行の実施について
<https://www.mod.go.jp/asdf/news/houdou/R2/20200529.pdf>